

That's OK!

藍住東中学校 糸林 佐菜

今回の派遣事業は、初めてだらけでした。初の海外、初のオーストラリアドル、初のホームステイ。とても貴重で、もう二度と体験できないほどの素晴らしい十日間を送ることができました。その中でも、大きく分けて二つ、学んだことがあります。

一つ目は、やはり現地に行かなければ学べないものがあるということです。

よく「海外では家の中でも靴を脱がない」と言われますが、私のホームステイ先ではお風呂の後やりラックスするときは靴を脱ぎ、靴下か裸足で過ごしていました。しかし、日本のような玄関は無く、靴も自分の部屋に置いておくスタイルでした。

また、水はとても貴重で、シャワーのお湯が出るのは少しだけ。もちろん浴槽に水は張りません。キッチンの水は飲料水と水道水で分けられていました。ペットボトルを捨てる時も、水で注いだりはしません。飲み終わったらそのままゴミ箱行きです。帰国後、当たり前前に水を好きなだけ使える日本はすごいなと思いました。当たり前ではないことに感謝し、節水に心掛けていきたいと思います。

二つ目は、チャレンジすることは成長する上で最も大切であることです。

例えば食べ物。今回、食べてみたかったミートパイやティムタムなどを食べることができました。けれど、それとは別に初めての食べ物も口にしました。「世界一まずいジャム」として有名なベジマイトは思っていたよりまずくなく、食べることができました。他にも、オーストラリアといえは動物、カンガルー肉にもチャレンジしました。意外にも美味しかったです。

他にも英語で会話したのはホストファミリー、学校のバディだけではなく、買い物

先で店員さん、教会で出会った人々など、初対面の外国人とたくさん話さなければなりません。英語で、いつ、何を話しかけられるかわからない状況で初めの頃は戸惑いましたが、会話を重ねるにつれて少しずつ慣れてきました。日本人同士で話す



時も、稀に英語で話したりしてしまうことがありました。日本に帰った今も、時々英語が出てしまいます。ただ、まだまだ拙い英語で、単語をつなぎ合わせて会話したこともあったので、もっと文法を使ってスラスラ言えるようにこれからも英語を磨き続けたいと思いました。

このように、とても充実した十日間を過ごし、日本と違うところをたくさん発見することができました。しかし、日本と変わらないところもありました。人を思いやる心です。オーストラリアで一番よく聞いた言葉は、「That's OK!」でした。感謝した時、困っていた時、誤った時。「That's OK!」と必ず、誰に限らず言います。日本でいう、「大丈夫だよ!」と同じような扱いでした。人のことを考え、思いやる心は世界共通なのだと、とてもあたたかい気持ちになりました。これから、外国人の方と交流する機会が増えていくかもしれません。その時は、人を思いやるこの気持ちを忘れず、積極的に会話に取り組んでいきたいと思っています。

